

銭湯ペンキ絵師

つれづれ日記

第12回

田中みずき (銭湯ペンキ絵師)



御馴染みの「ゆるキャラ」

十年以上前から話題になっていた「ゆるキャラ」という文化は、今では日本中ですっかり定着しています。「ゆるいマスコットキャラクター」を略した「ゆるキャラ」と呼ばれるキャラクターは老若男女に親しまれ、現在では地域を代表するゆるキャラの人気投票などもあります。この「ゆるキャラ」、実は活躍の場はイベントでの着ぐるみショーやキャラクター商品だけではないのです。

お湯の富士

銭湯のペンキ絵をメディアとして捉え、富士山だけではなくゆるキャラを継続的に描いている地域があります。東京の江戸川区です。描かれるのは、江戸川区の浴場組合のキャラクター、「お湯の富士」。

お湯の富士は、お相撲さんです。頭の天辺は富士山のように雪を被っており、ぷっくりとしたお腹にまわしを締め、おちょぼ口とつぶらな瞳が可愛い力士です。毎日、稽古の後に汗を流しに銭湯へ行くそうで、好物はコーヒー牛乳とちゃんこ鍋とのこと。第二寿湯の御主人によると、江戸川区にかつてあった相撲部屋にちなんで生まれたキャラクターだそうで、なるほどと思わされるプロフィールです。

江戸川区の浴場組合のHPなどで活躍しているほか、TwitterやFacebookといったSNSもやっています。語尾に「っすう〜」と付ける口調やお湯の富士を示す絵文字も可愛らしく、SNSでも人気が高いのです。

ペンキ絵に描くということ

ペンキ絵に描かれるようになったのは、私が独りで絵を描くようになった当初、江戸川区の第二寿湯という銭湯からお話を頂いたのが始まりでした。「絵には、お湯の富士も描いて欲しい」というご依頼に、うまく描けるだろうかと思悩んだことは忘れられません。

悩みながらも、第二寿湯の御主人と打合せをしていきました。銭湯に何うと、スタンプラリーの台紙や、シール、そしてタオルやストラップといったお湯の富士グッズがずらりと並び、驚かされたものです。江戸

川区では2011年から区内の銭湯を回るスタンプラリーを実施しており、このスタンプラリーの達成数に合わせてタオルやストラップといった賞品が貰えるというシステムを教えてくださいました。また、スタンプラリー期間が終わると全軒制覇した方々をマイスターと認定し、表彰すること。その試みの中でも、お湯の富士はアイコンとして重要な役割を担っていました。

打合せをしてお話を伺う中で、銭湯をしっかりと時代に乗せる試みに関わっているという実感がありました。新しいことを始める銭湯は少ないという風潮もある中で、同時代の流行を取り入れながらお客様に入浴を楽しんでもらえる仕組みを作る勢いを感じられ、ペンキ絵に富士山以外のものを描くことにも意味があると鑑みるきっかけとなったのです。数種のイメージ図を描いていき、打合せを重ね、最終的には当時お受けしていたテレビ取材も入る中での制作となりました。

新たな定番を生み出すために

ペンキ絵にお湯の富士を描き始めて数年。第二寿湯さん以外にも続々と区内の銭湯から「お湯の富士を」という依頼が入るようになり、今では何も資料を見なくともお湯の富士を描けるようになりました。

ネット上で「ペンキ絵にお湯の富士がいた」「シャッターにお湯の富士が描かれている」といった情報を書いているかたがいたり、「ペンキ絵のお湯の富士、可愛いわね。」と江戸川区の銭湯で常連客と思わしきかたから声を掛けられたりと、ありがたい反応を頂いています。

スタンプラリーの参加者は年々増え続け、大きな会場を借りて表彰式を行うようになっていたとのこと。もちろん、式にはお湯の富士も参加しています。

お湯の富士を描くペンキ絵は、今後もきっと増え続けるでしょう。

プロフィール ● 1983年大阪生まれ。幼少時から東京在住。筑波大学付属高等学校進学後、明治学院大学在学中に銭湯ペンキ絵師・中島盛夫氏に弟子入り。現在は独立し、銭湯のペンキ絵のほか、老人ホームの浴室や店舗など制作の場を広げている。現代美術展覧会・レビュー情報サイト「カロンズネット」元編集長。ペンキ絵制作に関する活動は、ブログ「銭湯ペンキ絵師見習い日記」(<http://mizu111.blog40.fc2.com/>)にて随時掲載。